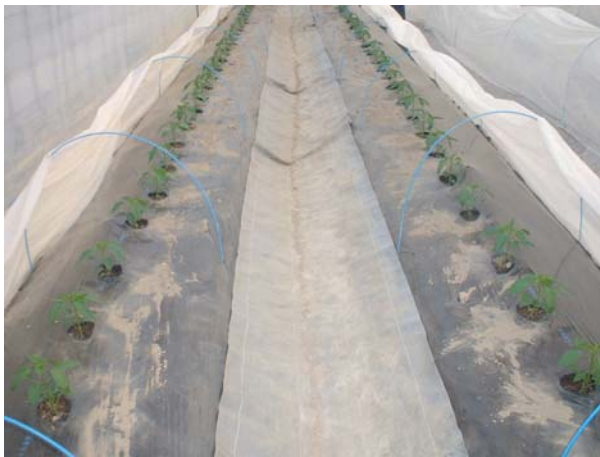


パプリカ（スペシャル）を用いた栽培試験について

仁古田圃場 1 号棟

試 験 区		対 照 区
タイプ I ・濃縮液肥 100% ・肥 料 50%	タイプ II ・普通液肥 100% ・肥 料 50%	・液 肥 0% ・肥 料 100%
・濃縮液肥 100% ・肥 料 0%	・普通液肥 100% ・肥 料 0%	



対照区・試験区ハウス栽培
定 植：平成 19 年 4 月 5 日
撮 影：平成 19 年 4 月 17 日
丈の長さ：15.0cm～19.0cm
(平成 19 年 4 月 20 日現在)

対照区・試験区ハウス栽培
定 植：平成 19 年 4 月 5 日
撮 影：平成 19 年 4 月 17 日
生育確認 順 調

生育検測状況
(丈の長さ)



生育検測状況
(茎の太さ)



試験区生育状況



別棟ハウス生育状況



評価 (中間)

- 1、パプリカの実数は全体的に平均している。
- 2、対照区・・・丈・茎共生育は順調バランスが良い ①
- 3、試験区1・・・多少生育が遅れているバラツキ少し有り、丈が短い ④
- 4、試験区2・・・多少生育が遅れているバラツキ有り ②
- 5、試験区3・・・特に生育が遅れているバラツキ有り ⑤
- 6、試験区4・・・多少生育が遅れているバラツキ少し有り ③

パプリカ生育状況



パプリカ収穫検収



パプリカ試験結果及び評価

結果・評価にあたり

- ①栽培圃場は土壌試験結果より多少肥料過多であった。
- ②試験栽培区は連作での栽培である。
- ③本年度は猛暑による生育障害（根腐れ病）が多く発生した。
- ④液肥（タイプⅠ・Ⅱ）の投入量 回行われた。
- ⑤消毒・追肥

【 生 育 】

イ) 生育結果・・・普通栽培

* 対照区

初期段階では生育が遅れていたが、少しずつ生育が進んできた。

9月に根腐れ病と思われる生育障害が発生した。

最終的に3本の障害であった。

生育順位は2番目に良かった。

* 試験区(1)・・・液肥(タイプⅠ) + 肥料50%

初期は生育が良かったが5月以降生育障害が起き肥料過多と思われる。

9月には根腐れ病と思われる病気が発生した。

10月始には全部枯れてしまった。

生育順位は5番目であった。

* 試験区(2)・・・液肥(タイプⅡ) + 肥料50%

試験区(1)と同様であった。

10月始には全部枯れてしまった。

生育順位は4番目であった。

* 試験区(3)・・・液肥(タイプⅠ) + 肥料0%

初期より生育良好だったが一時的に伸び悩みが見えたが良好な状態で生育した。
10月始には病気によるり全滅した。
生育順位は1番目であった。

- * 試験区 (4)・・・液肥 (タイプⅡ) + 肥料 0%
初期と後半は伸び悩んだが中間期は生育が良好だった。
10月始には試験区 (3) 同様に全滅してしまった。
生育順位は3番目であった。

ロ) 評 価

今年度は猛暑によりパプリカにとっては厳しい年になった。
灌水を行なっても根からの吸収が出ず根腐れ病による病気の発生が多かった。
又、連作による障害も多少見られた。
初期の段階では生育も良かったが液肥+肥料の試験区では肥料過多で生育が伸びなかった。
来年に向け灌水設備の見直し、定植時の根の状態をしっかりと管理して行く。(生産者)

【 収 穫 】

イ) 収穫結果

- * 対照区・・・普通栽培
初期より良質で収穫量も上がった。
9月に入りややサイズが小さくなり収穫量も落ちた。
収穫量は1番目だった。
- * 試験区 (1)・・・液肥 (タイプⅠ) + 液肥 50%
肥料過多により生育収穫量共最後まで上がらなかった。
終盤は収穫出来たが病気等により品質が悪く出荷にはならなかった。
収穫量は4番目であった。
- * 試験区 (2)・・・液肥 (タイプⅡ) + 液肥 50%
試験区 (1) 同様
収穫量は5番目であった。
- * 試験区 (3)・・・液肥 (タイプⅠ) + 液肥 0%
初期段階では収穫量が上がらなかったが少しづつ上がってきた。
9月後半は収穫出来たが品質が悪く出荷にならなかった。
収穫量は2番目だった。
- * 試験区 (4)・・・液肥 (タイプⅡ) + 液肥 0%
初期段階良質で収穫量も上がったが中盤以降収穫が減少した。

9月後半は収穫出来たが品質が悪く出荷にならなかった。
収穫量は3番目だった。

ロ) 評 価

今年度は猛暑により8月・9月収穫量が上がらなかった。
根腐れと思われる病気が多く発生し、品質が悪く出荷にならなかった。
全体的に液肥+肥料50%区は肥料過多となり、液肥灌水の方が良いと思われた。

ハ) 課 題

天候不順は仕方がないが灌水設備をしっかりと行ない全面に行き渡る設備が必要
定植時期、根の張り具合をしっかりと観察して行く。

【 糖 度 】

イ) 糖度結果

* 対照区・・・普通栽培

月によりバラツキが多く見られたが、後半はかなりの糖度が得られた。
糖度試験としては3番目であった。

* 試験区(1)・・・液肥(タイプⅠ)+肥料50%

月によりバラツキが多く見られたが、後半は最高の糖度が得られた。
糖度試験としては1番目であった。

* 試験区(2)・・・液肥(タイプⅡ)+肥料50%

試験区(1)と同様、後半は最高に近い値になった。
糖度試験としては2番目であった。

* 試験区(3)・・・液肥(タイプⅠ)+肥料0%

他試験区に比べ低い糖度であるが平均化していた。
糖度試験としては5番目であった。

* 試験区(4)・・・液肥(タイプⅡ)+肥料0%

初期は低い糖度であったが少しづつ高くなってきた。
糖度試験としては4番目であった。

ロ) 評 価

データより液肥+肥料50%区が一番高かった。
逆に液肥のみ区は、糖度はあるが試験区の中では低い方であった。
全体的に月々でバランスが多かった。
要因として猛暑による気象変化が原因と考えられる。

3、平成20年度実証試験計画

* レタス栽培検証

* 稲作検証

* ナス栽培検証

* 果樹・花卉栽培検証 他

* 液肥と改良土混合による検証を行なっている。